

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105834
法人名	有限会社 媛の華
事業所名	グループホーム 媛の華
所在地	松山市別府町183番地2
自己評価作成日	平成28年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①四季折々、たくさんの花に囲まれ、季節行事を積極的に行うことで、四季を体感して頂いている。 ②24時間365日往診可能な協力医療機関と連携し、安心した生活を送ることができる。 ③職員間で報告、連絡、相談を徹底するよう努めている。 ④施設内研修の実施、個別研修の実施、外部研修への参加などにより、資質向上に向け取り組んでいる。 ⑤職員の年齢層は幅広いが、お互い仲良くコミュニケーションが取れており、問題が生じた際には皆で共有し、解決への道を辿ることができている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●移動販売の日は、近所の方も利用しており、利用者とは話をすることもある。又、近所の方が野菜を持ってきてくれたり、遊びに来た時には、利用者と一緒に食事をしたこともあった。 ●献立は、季節の食材や食物繊維の多いものを意識して、職員が交代で作っており、協力医療機関の栄養士にアドバイスをもらっている。台所から食事ができる匂いや音がしていた。 ●昼食後には、午後からの過ごし方について、「お部屋で少し休めますか。それとも、ここで過ごしますか」と希望を聞いていた。5月のみどりの日には、利用者が好きな花の種や野菜の苗を選び、庭に植えた。 ●職員が順番に講師役を務め、研修を行っている。又、看取りやリハビリについては、外部講師を招き、職員の知識や技術向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム 媛の華

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 大原 チスカ

評価完了日 2016年6月12日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	(自己評価)	
			毎年、年度初めに運営方針・行動指針を掲げ、共有し、実 践している。(運営方針・行動指針は、毎年度末に皆で振り 返しを行い、次年度の検討を行っている)	
			(外部評価)	
			事業所理念「安心安全で楽しく、地域の中で共に支え合っ て生活できる場を提供します」を、各ユニットそれぞれの居 間の壁面に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			地方祭、栗の里移動販売(毎月実施)、味生第2小学生によ る慰問、味生児童館2歳児による慰問等の交流を通じ、地 域との繋がりを持てるようにしている。	
			(外部評価)	
			毎月の移動販売の日は、近隣の方にも利用してもらえるよう に日曜日に設定して毎月ポスティングして知らせている。毎 年近くの小学生の訪問があり、楽器演奏や歌の披露があ る。近くの児童館から二歳児と母親の訪問があり、踊り歌の 披露ある。公民館のイベント等の案内があるが、都合で参加 には至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議の際に、近況報告を行い、認知症や利用者 への対応についても説明している。近隣から当事業所に関 して問い合わせがあった際は、認知症やケア方法とうにつ いても説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回、近況報告を行っている。ケアについてもプレゼンテーションを行い、意見交換の中で評価をいただき、サービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、行事や研修内容の報告を行ったり、写真で活動の様子を報告している。又、職員が日々のケアの中で取り組んだことをテーマに採り上げて発表しており、「とろみに関する研究」、「お茶ゼリーに関する研究と試食」では、3種類の固さのお茶ゼリーを準備して試食してもらった。会議時には、職員が手作りしたおやつを振る舞っており、参加者の楽しみになっている。	会議メンバーから、さらに意見や提案を出してもらえるような取り組みを工夫してはどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にて実践等について報告を行っている。プレゼンテーションで困難事例について発表し、意見をいただいたり、運営推進会後の行事にも参加いただいている。また、事務的な内容については、適宜連絡を取ることで相互に情報交換を行い、円滑なサービス提供ができるよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、地域包括支援センターの担当者から感染症の注意喚起や、他事業所の取り組み事例の紹介等がある。高校生や短大生の職場体験の受け入れを行っている。同業者の連絡会で当番になり職員が「地震による被災後の生活において各事業所がどのような協力体制を構築すればよいか」について案を発表し、多くの事業所の賛同を得た。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について施設内研修や新人研修(個別に実施)を行っている。身体拘束は原則行わないことを理解した上で、やむを得ず身体拘束が必要な利用者がある場合には、カンファレンスを行い、日々の記録に基づき、再検討を実施している。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関のドアは開放されており、自由に出入りできるようになっていた。夜間帯のおむつ交換時のみ、利用者の手が動かないように対処するケースがある。家族の了承を得ており、介護記録にも状況を記入しているが、今後も「利用者にとってどうか」という視点で話し合いを重ね、利用者の立場に立った対応策を検討してほしい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止に関する施設内研修を実施し、理解を深めている。声掛け、ケアに関しては、その都度皆で報告、確認し合い、虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設内研修の中で、成年後見制度について盛り込んでいる。現に、当施設利用者が本制度を活用しており、成年後見人と密に連絡を取りながらケアを行っている。また、利用者で制度利用が必要と思われる方がいらっしゃった場合には、声掛けを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時に始まり、法改正等、契約内容に変更が生じたり、必要事項が発生した際には、適宜説明を行い、必ず書面にて同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、利用者家族の要望に対しては、その都度、最短でも3ヶ月のプラン作成時、必ずご意向はお伺いしている。また、運営推進会議や家族会等において、利用者、利用者家族のご意見等をお伺いする機会を設けている。 (外部評価) 家族には、普段から電話で頻繁に報告等を行っている。来訪時には、必要に応じて介護記録をみてもらい、利用者の暮らしの様子等を報告するようなケースもある。日々の様子について個々の担当者が記した「コメントシート」を家族に送付しており、運営推進会議に参加した家族からは、「親の様子がわかり、ありがたい」と感想があった。夕涼み会の家族への案内状には、利用者の手書きのメッセージを添えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 朝、夕の引継ぎ、職員会議にて職員からの意見を聞く機会を設けている。また、個別に話し合いを行っている。 (外部評価) 月1回、職員が順番に講師役になり、テーマを決めて内部研修を行っている。又、看取りやりハビリについては、外部講師を招き、職員の知識や技術向上に取り組んでいる。管理者は、職員に体調を崩したりストレスを溜めないよう、健康管理の大切さを話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 設問の通り、実施している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 設問の通り、実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 設問の通り実施している。運営推進会議や外部研修、外部での会議等で交流する機会を設けている。また、外部研修でプレゼンテーションすることで意見等を頂戴することにより、職員の資質向上及び施設サービス向上に繋がるよう取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査に伺い、情報収集を行っている。また、入所直後、生活歴シートを利用して要望、趣味等をお聞きし、皆で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に家族と話し、不安や要望をお聞きしている。また、面会時、プラン作成時、利用者の状態に変化が見られた際など、その都度報告し、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 生活に対するご意向を必ずお聞きし、支援、援助方針に取り入れている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者とのコミュニケーションを大切にし、一人一人の思いに傾聴している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月の利用料請求時、コメントシートにて近況報告している。必要時には、電話や文書で連絡している。面会時には、必要に応じてお話をさせていただき、プラン作成時には必ず要望をお聞きしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 定期的に家族と連絡を取りたい利用者や友人に連絡したい利用者がいた場合は、電話でお話いただいている。また、家族と一緒に気に入りの美容院へ出かけている利用者もいる。 (外部評価) 友人が訪ねて来た際には、居室に案内して、お茶等出してゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。移動販売車のスタッフとも顔馴染みとなり、食べ物の好みも知ってもらっており、好みの商品を用意してくれる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い者同士、一緒に車で外出したり、室内外で座席を近づけたりしている。また、お元気な利用者が、意思疎通の困難な利用者の見守りや声掛けをして下さったり、配膳を手伝って下さったりと、お互い支え合っている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されたり利用者については、療養の経過を家族に確認したり、様子見に病院を訪ねたり、可能な場合には再度受入れできるようにしている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意向を聞ける利用者には希望等をお聞きし、意思表示の困難な利用者に関しても、日常生活場面を細かく観察し、思いをくみ取っている。	
			(外部評価) 入居時に、利用者や家族から聞き取り、これまでの生活スタイルや習慣、好きな場所や食べ物等を「生活歴シート」にまとめている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所後、生活歴シートを活用して情報を得ている。日常の会話のを通じて、生活歴を知り得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の日々の様子、健康状態を細かく介護記録に残している。グループホーム日誌にも記入し、朝夕の引継ぎで共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			担当者が前もってモニタリングをし、皆で検討した後、ケアプランを作成している。また、統一ケアを実施するため、必要時に個別ケアの見直しを行っている。	
			(外部評価)	
			「利用者のできることを増やす」ことに着目して、介護計画作りに取り組んでいる。利用者個々の担当職員を中心にモニタリングを行い、職員カンファレンスで話し合って3か月ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の様子やケアの実践やその他の変化等を細かく記録し、モニタリングに活用してケアプランを変更していく。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			既存のサービスに 捉われず、一人一人できること、残存機能を活かし、細かくケアプランを作成している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地方祭には子ども神輿に入ってもらい、祭りを楽しみ、昔を懐かしんでいた。味生第2小学生の慰問、味生児童館2歳児の慰問、ギターやオカリナ演奏等もボランティア慰問を楽しまれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間365日往診可能な協力医療機関と連携し、迅速な対応ができています。また、必要に応じて他の医療機関、専門医療も受診している。	
			(外部評価) 往診時は、利用者の普段の様子を医師に詳しく伝えている。日中、眠気の強い方には、日光浴をしたり、医師に相談して薬の種類や量の変更を検討してもらいながら対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の健康上の変化は、その都度、施設看護師、協力医療機関へ報告し、医師の指示にて医療機関看護師が処置対応に来て下さる。また、施設看護師が対応できることは、医師に確認しながら処置を行っている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は、協力医療機関及び当施設より情報提供を行い、安心して治療できるようにしている。入院中はケアマネ、看護師等が病院へ出向き、担当医や相談員等と面談し、退院に向けての話し合いをしている。退院時は、協力医療機関にも報告し、今後の池沼方針等について話し合っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階から看取りについて家族と話し合い、施設でできることを十分に説明している。また、家族、施設職員、協力医療機関医師との話し合いを行い、看取り方針を検討している。	
			(外部評価) 終末期の希望については、入居時の聞き取りだけでなく、その都度、家族の意思を確認しながら、家族、医師、職員で方針を話し合っている。看取りの段階で入浴が難しい方は、様子を見ながら、毎日清拭をして清潔に過ごせるよう支援している。職員は、「看取り」の外部研修に参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設内研修を実施し、応急処置や心肺蘇生、事故発生時の対応がスムーズにできるよう、努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設内研修(年2回に分けて実施)と定期的な避難訓練を行うことで、災害発生時の対応や避難誘導について学ぶ機会を設けている。近隣、地域との協力体制については、運営推進会議にて協力を働き掛けている。 (外部評価) 居間の棚には、転倒防止用突っ張り棒で対策をしている。避難訓練の際は、実際に利用者全員を駐車場まで避難させる訓練を実施した。又、緊急時に備え、各居室の壁面には、火災時と救急搬送時の手順を掲示している。事業所には、防火・防災管理者の資格を持つ職員が3～4名いる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の性格や生活歴等を可能な限り把握し、その方の誇りを損ねないよう、対応している。言葉掛けの仕方等についても、施設内研修で取り上げ、職員間で共有している。 (外部評価) 昼食後には、午後からの過ごし方について、「お部屋で少し休めますか。それとも、ここで過ごしますか」と希望を聞いていた。5月のみどりの日には、利用者個々に好きな花の種や野菜の苗を選び、庭に植え名札を付けて生長を楽しんでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人の言葉、表現を見逃さず、観察し、その思いをくみ取れるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の出来ること出来ないことを把握し、残存機能を活か せるよう、手伝い、楽しみ、余暇活動に取り入れている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 起床時は、鏡を見て身だしなみを整えてもらっている。日課 にお化粧、マニキュアを楽しんでもらっている。。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事メニュー作りに協力してもらったり、味見をしてもらった り、また、配膳・下膳の手伝いもしていただき、共同作業で 行っている。季節折々の行事食も利用者と共に作ることもあ る。 (外部評価) 献立は、季節の食材や食物繊維の多いものを意識して、職 員が交代で作っており、協力医療機関の栄養士にアドバイ スをもらっている。台所から食事ができる匂いや音がしてい た。時には利用者も野菜の下ごしらえを行うことがある。庭で 収穫した野菜が食卓に並ぶことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 設問の通り実施している。個別に食事形態を記入したカード を用い、皆で共有できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口 腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、実践している。義歯は毎晩洗浄剤で消毒。自力で 口腔ケアができない利用者には、口腔スポンジを使用して いる。定期的に歯科医師による歯科健診、口腔ケアを実施 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排便チャートを用い、一人一人の状況を把握し、失敗のないよう早めにトイレ誘導している。また、下剤服用時には、排便のタイミングを把握し、トイレに座っていただいている。	
			(外部評価) できるだけ、トイレで排泄できるように支援している。普段の排泄状況について職員間で話し合い、トイレに行く間隔を少し短くすることで、失禁がなくなったようなケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バランスの取れた献立になるよう配慮している。また、水分はしっかり摂っていただいている。毎日のリハビリは、個別にメニューを作成し、実施している。それでも便秘がちな利用者には、協力医療機関に相談し、服薬調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の時間、順番等はできるだけ利用者の希望に添えるようにしている。冬にはゆず湯に入り、季節感を味わっていただいている。利用者様の身体状況に応じて機械浴、シャワー浴を行っている。	
			(外部評価) 週に2～3回入浴できるように支援している。仲の良い利用者同士で入浴することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人一人の健康、生活リズムに配慮し、ベッドで休息したり、ソファで休んでもらっている。日中はリビングで過ごすことを基本としているが、日々体調を見て、一人一人安楽にいられるよう気配りしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬を無くすため、服薬時は必ず本人の前で名前、薬を確認している。また、誤薬が早期発見できるよう、薬の空袋は朝、昼、夕の3回、別の袋に分けて捨て、1日の終わりに夜勤者が捨てるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴を把握し、可能な範囲で手伝いをお願いしている。園芸、編み物、洗濯干し、その他の役割を持つことで、本人が張り切って実践されている。また、毎月の栗の里移動販売での買い物を楽しまれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 当施設からの外出以外では、利用者家族が食事やドライブ等に同行している。当施設では、天候の良い日には施設周辺に花を見に出かけたり、買い物を希望される方には職員が同行して買い物に出かけたりしている。 (外部評価) ドライブや季節の花を見に出かけている。季節のよい時期には、駐車場に出て毎朝ラジオ体操を行っている。	利用者の暮らしを地域にも広げていけるように、家族や地域の方の協力を得られるよう、取り組みを工夫してはどうだろうか。又、重度の利用者も、体調や気温等もみながら外気にふれるような機会を作ってほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 原則、金銭は預からないようにしており、外出時の飲食や栗の里の買い物は立て替えしている。個人的に利用者がお金を所有する場合には、家族にもその管理は利用者や家族の自己責任である旨を説明している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望した場合は、電話連絡できるよう支援している。また、年始には年賀状を作成し、家族会等の大きな行事では、利用者が直筆で手紙を書き、家族に案内している。手紙を書けない利用者については、職員が代筆している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 施設周りには、四季折々の花を植え、室内には各所に花や置物を置き、季節ごとに交換している。また、壁には毎月掲示物を変えて掲示している。その他、生活環境が快適になるよう配慮している。	
			(外部評価) 日中は、居間で過ごすことが多く、調査訪問時には、廊下で歩行訓練したり、漢字を書く練習をする方、雑誌やテレビをみている方等がいた。観葉植物や造花を各所に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファ、外にはベンチを設け、気の合う者同士で談笑し合っている。食卓の座席も、利用者の希望で席替えをするなどしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には防災に配慮して、安全な配置で家具を設置している。テレビ、ラジカセ、写真、作品、カレンダー等、利用者の好みに応じて置いている。	
			(外部評価) ランの花鉢に水やりする日が分かるように、職員がカレンダーに○印を付けていた。利用者は、カレンダーで確認して世話をしている。寝たきりの利用者は、好きな大相撲やニュースをラジオで聞けるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 設問の通り実践している。毎月、手作りカレンダーと思い出アルバムを作成し、各居室に掲示している。慰問で頂いた手紙や作品も居室に見えるように掲示している。	